

会期／二〇一四年九月二十四日(水)～三十日(火)  
 会場／日本橋三越本店本館六階美術特選画廊(最終日は午後四時閉場)

■茶席

九月二十四日(水)	林屋 晴三 先生
二十五日(木)	裏千家 北川 宗澄 先生
二十六日(金)	武者小路千家 佐伯 江南齋 先生
二十七日(土)	表千家 徳澤 貴美子 先生
二十八日(日)	裏千家 鈴木 宗泰 先生
二十九日(月)	裏千家 植松 宗慶 先生
三十日(火)	表千家 斎藤 孝子 先生

(お茶席は午後四時にて終了)

■お呈茶予定時間

午前十一時～午後四時 (誠に勝手ながら三十日は午後三時までとさせていただきます)

村瀬 治兵衛

略歴

- 1957年 東京都に生まれる
- 1975年 東京都立芸術高等学校卒業
- 1980年 東京造形大学彫刻科卒業  
同年より代々にわたる家業である木地師塗師に従事する裏千家業躰 日々庵 鈴木宗幹先生に茶道の教えをうける
- 1989年 池袋西武にて「担い手三人」展開催(西岡良弘・藤田潤・村瀬治)
- 1991年 京都嵯峨吉兆にて父子展開催
- 1993年 日本橋三越本店にて父子展開催
- 1997年 福岡三越にて父子展開催
- 2001年 三代目治兵衛を襲名、木地師として七代目を継ぐ  
日本橋三越本店にて襲名展開催
- 2005年 日本橋三越本店にて個展開催
- 2009年 妙喜庵・待庵の炉縁製作
- 2010年 東京国立近代美術館工芸館  
「現代工芸への視点 茶事をめぐって」展出品
- 2011年 日本橋三越本店にて個展開催
- 2014年 アメリカ イェール大学アジアアートミュージアム收藏
- 2010年以後 日本橋三越本店、福岡三越、新宿伊勢丹本店、柿傳ギャラリー、ギャラリー栗本など各地にて個展開催  
伝統技術を守りながら、独創性をあわせもつ今に生きる漆器づくりに工夫をこらす。



木の魅力  
 村瀬 治兵衛  
 漆芸展



飾る日も 飾らない日も 三越と

MITSUKOSHI

日本橋本店 〒103-8001 東京都中央区日本橋室町1-4-1  
 電話/03-3241-3311(大代表) <http://www.mitsukoshi.co.jp/>

会期：2014年9月24日(水)～30日(火) (最終日午後4時閉場)  
 会場：日本橋三越本店本館6階美術特選画廊

惟高親王(文德天皇の皇子844～89)が木地師に職を指導する画

ごあいさつ

木の魅力：それはフォルムの柔らかさと木目の美しさ。そして何よりもそれを手にしたときのぬくもりと使うほどに増す味わいの深さが私たち日本人の心を強く打ちます。三代村瀬治兵衛氏の作品は木のもつ魅力を最大限に生かした逸品揃いです。日々轆轤に向かい木に語りかけ、漆をかけつつ問い掛ける、そんな日常から生まれた新作の数々を三年ぶりとなる本展にて一堂に展観いたします。初秋の清々しい一日、是非ご高覧賜りますようご案内申し上げます。

平成二十六年九月

日本橋三越本店



木地師の祖といわれる惟高親王は轆轤の技法を山人に教えたといわれ木地師の家には山に入る許可状があり、先祖と共に惟高親王像を敬ったと聞いています。日本は山国です。山をただ眺めるだけで人は癒されると共に、畏怖を感じることもあると思います。貴重な山の樹木を伐るための許可状があったことは、日本における朱漆器の生産が、祭祀用具から始まったことにもつながります。技法は何千年もかわらず今に引き継がれ、山の力に支えられた木と塗の魅力を楽しみたいかたちにして現代に伝えたいと試んでいます。どうぞご高覧たまわりたくお願い申し上げます。

平成二十六年九月吉日

村瀬治兵衛

